

# 木の葉モール橋本

KONOHA MALL HASHIMOTO

No. 18-007-2011作成  
新築  
物販／飲食

発注者	福岡地所株式会社	カテゴリー	
デザイン・ロケース	ザ・ジャーディ・パートナーシップ社	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術
基本設計	株式会社アール・アイ・エー	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
実施設計・監理	西松建設㈱九州支社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化
施工	西松建設㈱九州支社	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

## 環境配慮型ショッピングセンター



南西側外観

### 地域密着のショッピングセンターを目指して

計画地は福岡市の西方に位置し、川や田園風景が広がる自然が豊かな場所である。本計画は区画整理後からスタートし、敷地前面の国道4車線拡幅化や都市高速道路の開通時期に合わせて完成した。さらに、地下鉄橋本駅と建物をブリッジで繋げることで、交通アクセスが良い立地となっている。

本施設は、地域特性を考慮し、地域のコミュニティーセンターとしての機能をあわせ持つ、地域密着型の店舗を中心とし、カルチャーセンターや情報交流ができるコーナーなど生活をサポートする施設を充実させた複合型商業施設としている。



西側より俯瞰

### 地元の自然を意識したデザイン

建築のデザインコンセプトは、ザ・ジャーディ・パートナーシップ (JPI) が担当した。

JPIは、計画地周辺の山や川など、豊かな自然環境に着目し、建築デザインを提案した。

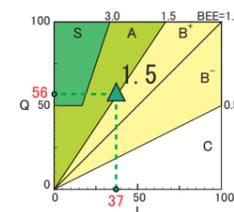
外観の色彩については、周辺環境を意識し落ち着いた色調を用いているものの、建物形態は緩やかな局面を多用し、緑鮮やかな波状のグリーンウォールが賑わいと柔らかさを表現している。

また、本施設にある「木の葉」は本施設のデザインモチーフである。



アウトモール

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	福岡県福岡市	Aランク
竣工年	2011年	BEE=1.5
敷地面積	33,410㎡	2007年度版
延床面積	84,402㎡	自己評価
構造	S造	
階数	地下1階、地上7階	
	ERR (CASBEE準拠)	
	物販 49%	
	飲食 39%	
	駐車場(工場) 62%	



### 環境に配慮したショッピングセンター

本施設は、積極的に環境負荷への配慮を行うことで、エネルギー使用の削減、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいる。

#### ・太陽光発電設備

屋上には本施設のシンボルである5カ所の木の葉に太陽光発電パネルを設置している。壁面や屋上への設置を合わせて、商業施設として九州では最大級の規模となっている。

モール内部のインフォメーション横に発電量を表示するモニターを設置することで、施設利用者に対して環境エネルギーの利用啓発を促している。



リーフ・屋上・壁面の太陽光発電

#### ・昼光利用設備

モール吹抜部においてトップライトを採用し、昼光利用を行うことで人工照明によるエネルギー使用の削減に努めた。

これにより、明るく開放的な空間を創出することができ、商業施設としての立体的な賑わいを実現した。



吹抜のトップライト(左：インナーモール 右：センターコート)

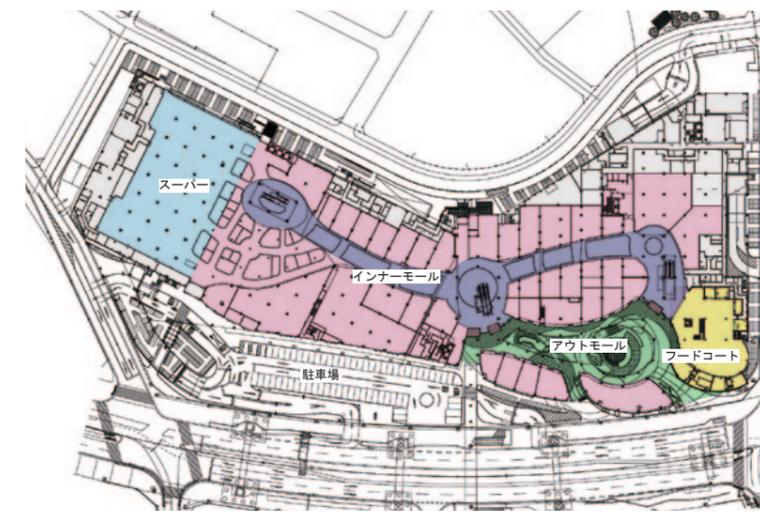
#### ・アウトモール

ガーデンコートを配したアウトモールは、南向きに設けていて北風が吹き付けるのを防ぐとともに、太陽光が入り込むようにしている。また、敷地周辺の緑との連続性をイメージしたグリーンウォールがあり、一部を緑化している。緑や水辺のある環境をつくることで、四季を感じることのできる心地よい空間としている。

#### ・その他

以上に挙げたもの他には、厨房排水濾過設備、雨水再利用、井水利用を採用している。また、駅前ということもありパークアンドライドなどの取り組みを行うことで、運営面においても環境にやさしい施設としている。

これらの取り組み等により、CASBEE福岡でAランクの評価を取得した。



平面図 S=1/3000

#### 設計担当者

統括：小手川邦博／建築：大串康尚／構造：横林直浩／設備：是枝弘規  
／外構：T&S DESIGN PARTNERS／照明デザイン：LIGHT・PLAN

#### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q. 2. 3. 対応性・更新性 (階高のゆとり、空間の形状・自由さ)
- Q. 3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置、形態が町並みに調和し新たなシンボルを形成)
- Q. 3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (計画段階から地域性・アメニティに配慮した取り組み)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (トップライト、太陽光パネルの設置で自然エネルギーの利用)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型便器の採用や、雨水排水の再利用)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (主要構造体に電炉材、高炉セメント、再生骨材の使用)